



2024年10月31日

全海運 青年経営者意見交換会 in 博多

本意見交換会のテーマ

内航海運業界の未来について（内航海運2040）
渦の中心になれ2.0

開催地・博多114名が参集！！

司会：九海連・青年部会 坂田委員

全国海運組合連合会（全海運）は2024年10月31日（木）、福岡市博多区内のホテルに於いて「青年経営者意見交換会 in博多」を開催した。

同会議は、九州地方海運組合連合会（九海連）、中国地方海運組合連合会（中海連）、四国地方海運組合連合会（四海連）、関東連盟（関東沿海海運組合・静岡県内航海運組合・東北内航海運組合の青年部が一時的に統合）の4地区の青年経営者会議が持ち回り開催している。

当日は、九州運輸局から来賓を招き、全海運の正副会長ほか、全海運のみならず他団体に加盟している青年経営者（概ね50歳以下）など総勢114名が出席した。

今回は全海運の青年部WG（村田担当副会長、渡邊座長、古中副座長、他委員10名の合計13名で構成）が昨年正式な委員会として発足してから2回目の意見交換会となり、第1回目同様にプレゼンテーション形式にて開催された。

当日のスケジュール

第1部

1. 開会挨拶
2. 各地区活動報告
～船員対策チャレンジ事業等～
3. 船舶版カーナビ「ナビン」説明会
(MHIMSB三菱造船)
4. 講演会「自動運航船の研究紹介」
(海上技術安全研究所)

第2部

1. 趣旨説明
2. 各地区プレゼンテーション
3. 総括
4. 閉会挨拶

第2部終了後、懇親会を開催。

当日は、九州地方海運組合連合会 宗田会長の開会の辞で幕を開けた。

本意見交換会は2部構成で開催され、第1部においては、各地区青年部より船員対策チャレンジ事業の活動・実施状況についての発表に加えて、MHIMSB三菱造船より船舶版カーナビ「タブレット型運航支援システムナビ」についての説明、海上技術安全研究所より「自動運航船の研究紹介」についてご講演いただいた。

第2部において、4地区の青年経営者代表より本意見交換会のテーマに沿ったプレゼン発表を実施。

今回の意見交換会の趣旨・テーマ設定について

渡邊座長は「仕事は自分一人ではできない、周囲にいる人々と一緒に協力し合っていくのが仕事。その場合には、必ず自分から積極的に仕事を求めて働きかけ、周囲にいる人々が自然に協力してくれるような状態にしていかなければならないこの「渦の中心で仕事をする」という元京セラの稲盛和夫会長の言葉を今回の意見交換会のコンセプトにした」と述べ、その上で「16年後の2040年を船のリプレース建造で考えると遠すぎる未来ではない。

例えば、今回船員問題に追われるという、そこだけでない40年の世界があるのではないか。今日活発に意見を出してもらい明るい未来が創れるといい」との考えを強調した。

4地区プレゼンテーションの内容

「2040年の内航業界について」九海連青年部にアンケートを実施！

アンケート結果を踏まえて、次の3つについて各々分析▼

1. 船員：2040年は船員3万人が必要（日本だけでなく世界にも目を向けていく??）
2. 用船料：トラック業界に似た最低適正用船料の確保（海事局の取り組みに期待）
3. 船舶設備：スターリンクの活用、化石燃料と電池のハイブリッドの導入

まとめ → 適正な用船料、船員の確保・育成に尽力、乗組員の基準の見直しや海技免状取得のための履歴短縮等の検討が必要。

2040年の内航海運産業について想像・・・課題&解決策とは？

想定される次の3つの課題について解決策を検討▼

1. 人材不足&コスト上昇
→ 省人化、PR戦略、若年層の離職防止、船員不足による運航停止への救済措置
2. 用船料不足
→ オペ単位での組合結成・交渉、標準用船料の設定、適正取引可能な土台作り
3. 売船マーケット不足
→ 海売による船齢規制や償却期間終了後の売船の動向などの様々なケースに応じたスムーズな取引環境作り

まとめ → 迫る未来に対し、船主だけでなく業界全体で立ち向かい、既存の業界のあたりまえをアップデートしつつ子供達に夢を与える業界へしていく。

内航海運業界の現状と2040年の想定・・・課題&あるべき姿とは？

主に2つの課題について解決策を検討▼

1. 人員採用・定着

→ 「内航船員」をテーマとしたドラマ制作、水産高校とのタイアップ事業、ハローワークとの連携、インフラ整備、省人化、グレーゾーン業務削減、海技免状取得の期間短縮、労働条件・環境の改善

2. 経営のノウハウの継承・アップデート

→ 組合にて定期的に会合を実施

まとめ → 課題山積みの昨今、今一度自社の取り巻く環境の整理・分析が必要。本会議で得た貴重な機会を各社が経営のヒントにして乗り越えていくべき。

四海連

内航海運の未来展望・・・持続成長可能か？

現状

- ・ 内部環境は課題山積（2つ(船・人)の高齢化、船舶価格高騰、運賃・用船料の低迷など）
- ・ 外部環境は将来への懸念（人口減少、内航輸送量低下の可能性）

関東連盟

未来展望・・・内航海運業界をより良くするための活動を模索・考案

既存の基本的な活動には限界があるため、打破するためには・・・
「成長する海外市場」での内航海運事業を営んではどうか？

まとめ → 未来展望に向けて、海外進出の課題であるカボタージュ規制、出資規制、労力、コスト等を丁寧に解決し、約2年後の事業開始を想定した各タスクのスケジュールリングを遂行していきたい。

本意見交換会の総括をした全海運 蔵本会長は「2040年に自分たちの子供が将来に向けて後を継ぎたいと思えるような業界にしてほしい」と述べた。また、最後に村田青年部WG担当副会長は「真剣に各地区から発表していただいたことに感謝し、今後の経営に役立ててほしい」とコメントした。



青年部WG
渡邊座長

その後、会場を移して懇親会が開かれ、九州運輸局 小澤海事振興部次長よりご挨拶、続いて古中副座長よりご挨拶及び乾杯のご発声で幕を開けた。

懇親会の様子



懇親会の最後には、次回開催地（四国地区）へバトンの受け渡しが行われ、四海連青年部 福村委員長より締めのご挨拶及び一本締めにて閉会した。